

トピックス

エキノコックス症

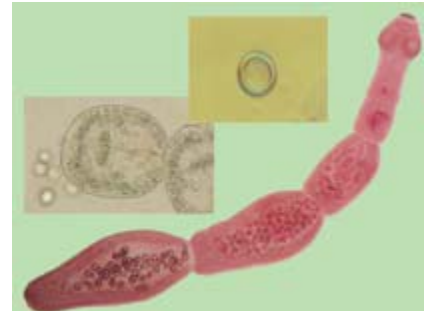
先日の新聞報道（3 月 7 日付毎日新聞夕刊）によれば、北海道大獣医学部・神谷教授らの研究グループが 1997-2002 年に国内各地の飼育犬を調査した結果、北海道以外の犬からもエキノコックスに感染している犬（2/64 匹）が発見されました。

この寄生虫「エキノコックス」による感染症は人獣共通感染症の一つで、感染症法（正式名「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」）では 4 類の全数届出疾患に規定されています。

世界的には、多くのイヌ科の動物（イヌ、キツネ、オオカミなど）及び一部のネコ科動物を最終宿主とする寄生虫ですが、従来わが国では北海道だけにキタキツネなどに寄生して生存していると考えられていました。

キツネや犬は幼虫が寄生しているネズミ（中間宿主）を食べることでエキノコックスに感染し、ヒトは主としてエキノコックスの虫卵を含む動物の糞便で汚染された水や食べ物を口から摂取することにより感染すると考えられています。体内に入った虫卵は小腸粘膜内に侵入した後肝臓に定着し、幼虫になって感染が成立します。しかしながら、幼虫は非常にゆっくりと発育することから感染初期には自覚症状は全く現れず、5 ~ 15 年以上の無症状期があるとされています。症状が出現した時には悪性腫瘍に似た型の腫瘍が肝臓に形成され、重い肝機能障害を起こしている場合が多く、手遅れになることも少なくありません。従って、可能な限り感染初期の段階で肝臓の腫瘍状のものを発見し、外科手術によって摘出する必要があります。また、感染した動物の肉の摂食やヒトからヒトへの感染は起こりません。

厚生労働省の統計では 1999 年 4 月以降これまでに 53 人の患者発生と 10 人以上の死者があり、また、現在までの累計では北海道以外での発生例も 6.5 割（51/77）を占めていることから、北海道や国外での感染が推定されています。しかし、今回本州内での飼育犬（但し、2 匹ともに北海道での生活歴あり）で感染例が発見されたことから、ペット動物の移動と共にエキノコックスも北海道から本州に移動してきていることが確認されました。現時点では愛知県内で緊急に対処する必要はないと考えられますが、一般環境の衛生状態の保持・向上の観点からも中間宿主であるネズミの駆除及び、流行地域への旅行では感染機会が考えられるキタキツネ（野生、飼育を問わず）や犬との接触を控え、また、現地では虫卵で汚染されている可能性のある沢水や食物の摂取を避けるのが賢明と考えられます。



山下次郎著（神谷正雄増補）
「〔増補版〕エキノコックス - その正
体と対策」表紙から引用

流行状況

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 *レンサ球菌のうち血清型分類のA群に分類されるものによる上気道感染症

定点当たりの報告数は1.12(前週1.15)と同程度に推移

感染性胃腸炎

定点当たりの報告数は8.2(前週8.4)と同程度に推移

インフルエンザ

定点当たりの報告数は3.3(前週4.7)と更に減少していますが、定点の先生方からのコメントでは、インフルエンザB型の報告が目立ちます。

厚生労働省インフルエンザ対策キャンペーンホームページ

インフルエンザQ&A、キャンペーンポスターなどがダウンロードできます。

<http://influenza-mhlw.sfc.wide.ad.jp/>

感染症についての説明及びグラフ総覧については、愛知県衛生研究所のホームページをご覧ください。
(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/>)



定点の先生方からのコメント

尾張西部地区

病原性大腸菌O1 7歳女、10歳男

病原性大腸菌O6 7歳男

病原性大腸菌O18 3歳男、4歳男、3歳女

病原性大腸菌O20 1歳女

病原性大腸菌O25 10歳男

病原性大腸菌O142 10歳女

インフルエンザが再び増加している。

【尾西市 城後小児科】

感染性腸炎、やや年長児にも多いです。軽症

【一宮市 あさのこどもクリニック】

1歳女 B型インフルエンザ

【一宮市 平谷小児科】

ロタ^{*1}様の症状の胃腸炎がありますが、5～6歳とやや高年齢層に見られます。

【犬山市 武内医院】

*1 ロタ（ウイルス）： 感染性胃腸炎の病原体の一つで、多くは乳幼児に冬季白色性下痢症を起こす。主な症状は、嘔吐と水溶性の下痢（酸臭のある白色便）である。

ロタウイルスによると思われる胃腸炎の患児が多くみられます。
インフルエンザ 2名ありました。

【江南市 みやぐちこどもクリニック】

インフルエンザは13case全てB型です。うちワクチン接種者7case
ウイルス性胃腸炎が多いようです。
水痘も続発中
手足口病もみられます。

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】

1歳9ヵ月男、1歳2ヵ月女 ロタウイルス（+）でした。

【春日町 丹羽医院】

15歳男 伝染性単核症
40歳女 麻疹疑いにて検査中

【師勝町 田中クリニック】

尾張東部地区

B型インフルエンザ1例 5歳女
感染性胃腸炎が多く、溶連菌感染、水痘が目立ちます。
伝染性紅斑もみられます。

【瀬戸市 津田こどもクリニック】

インフルエンザ流行は終了したと思いますが、B型が散発で見られます。
（1例4歳女は1月にA型罹患）
水痘、流行性耳下腺炎流行続いています。

【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】

インフルエンザ少々（ほとんどB型）
感染性胃腸炎増加
溶連菌感染症増えてます。

【春日井市 朝宮こどもクリニック】

インフルエンザも下火になりましたが、インフルエンザB型がみられました。
水痘もあります。

【春日井市 かちがわ北病院】

インフルエンザB型が少数みられます。
ロタ胃腸炎つづいています。
アデノ咽頭炎もみられてきました。

【小牧市 小牧市民病院】

今週のインフルエンザは24例中12例がB型でした。
B型の動向が気になります。

【小牧市 志水こどもクリニック】

マイコプラズマ肺炎 48歳男

【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】

胃腸カゼ多し。

A型インフルエンザ 1名

【南知多町 医療法人大岩医院】

ヘルペス性歯肉口内炎 1歳女

【美浜町 愛知県厚生農業協同組合連合会知多厚生病院】

RSウイルス 10ヵ月男

【東海市 東海市民病院】

感染性胃腸炎ロタ陽性は、2歳以下に多く見られます。

インフルエンザはB型が主です。

【東海市 小児科ハヤカワ医院】

西三河地区

カンピロバクター腸炎 9ヵ月男

A型インフルエンザ 5歳男、2歳女

B型インフルエンザ 20歳女、6歳女

【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】

8歳男 カンピロバクター、病原性大腸菌O1

4歳男 病原性大腸菌O146

1歳女、2歳男 ロタウイルス

【岡崎市 医療法人深田小児科】

B型インフルエンザ 5名

1歳女 ロタウイルス(+)

5歳女 病原大腸菌O25 VT(-)

2歳女、8歳男 病原性大腸菌O1 VT(-)

12歳女 病原性大腸菌O1 VT(-)+カンピロバクター

【岡崎市 にいのみ小児科】

A型インフルエンザ 3名

1歳男、1歳女 病原大腸菌O1

【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】

B型インフルエンザ 1名

インフルABクイック B(+)

【岡崎市 永坂内科医院】

3歳 インフルエンザB(+)

【刈谷市 田和小児科医院】

インフルエンザ再燃 A型10名、B型4名

【知立市 宮谷クリニック】

水痘が増加

【西尾市 やすい小児科】

B型インフルエンザが散見されます。(9人)

【西尾市 山岸クリニック】

1歳男 アデノウイルス感染症、8歳男 带状疱疹

【幸田町 とみた小児科】

溶連菌感染症、感染性胃腸炎が流行しています。

【三好町 三好町民病院】

東三河地区

インフルエンザ B 型が幼稚園で少し流行しています。

【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】

ロタ陽性 男 12 ヶ月以下 2 名、男 1 歳、女 4 歳、女 6 歳

【蒲郡市 蒲郡市民病院】

インフルエンザは殆ど B 型です。

【田原町 かわせ小児科】

1～3 類感染症の発生状況（愛知県）

細菌性赤痢

番号	報告 保健所	年齢	性別	発病 月日	初診 月日	診定 月日	菌型等	備考
1	豊田市	20	女	3 / 1	3 / 2	3 / 6		

全数把握の 4 類感染症の発生状況（愛知県）

アメーバ赤痢 1 例 感染経路不明

急性ウイルス性肝炎（B 型）1 例〔第 8 週追加分〕

第8週(15年2月17日~2月23日)の4類感染症 (全国)

定点当たり報告数が過去5年間の同時期と比べて特別多い疾患はなかった。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎と感染性胃腸炎の定点当たり報告数は増加に転じた。前者は富山県(4.5)、福井県(4.0)からの報告が多く、後者は18都道府県から2桁の報告があり、熊本県(21.4)を始めとして、大分県(21.1)、宮崎県(18.6)など九州地方からの報告が多い。麻疹(成人麻疹を除く)の定点当たり報告数は増加し始め、福島県(0.9)、宮崎県(0.8)、徳島県(0.3)、埼玉県(0.2)、千葉県(0.2)で多い。ほぼ半数は2歳未満の乳幼児である。咽頭結膜熱の定点当たり報告数は微増し、都道府県別では石川県(0.7)、福井県(0.4)、秋田県(0.3)に多い。水痘の定点当たり報告数はやや増加したが、2週連続して沖縄県(8.9)の増加が続いている。また、佐賀県(3.8)や福岡県(3.3)でも増加し、九州・沖縄地域の定点当たり報告数は3.33で、前週(3.14)よりさらに増加した。風疹は依然として岡山県(0.2)からの報告が約3割を占めている。流行性耳下腺炎も引き続き秋田県(2.1)からの報告が多い。インフルエンザの定点当たり報告数は4週連続でほとんどの都道府県で減少し、全国レベルで15.6とピーク時の半分以下となったが、広島県(3.0)、岐阜県(6.8)、愛知県(7.7)、三重県(9.8)を除く都道府県では依然として2桁の報告がある。

(Infectious Diseases Weekly Report より抜粋

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター - 感染症情報室提供)

詳細は感染症情報センター - のホームページ (<http://idsc.nih.go.jp/kanja/index-j.html>) の感染症発生動向調査週報をご覧ください。

愛知県感染症情報

2003年第1週～第10週(平成14年12月30日～平成15年3月9日)(累計)

愛知県衛生研究所

	定点数					インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	風疹	ヘルパンギーナ	麻疹	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	急性脳炎 (日本脳炎を除く)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	成人麻疹
	インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹																					
愛知県 (名古屋市を含む)	191	182	35	51	13	46,251	112	1,530	10,898	3,663	159	263	1,018	6	7	29	19	814	13	133	1	0	4	21	0	1
総数 (名古屋市は除く)	121	112	24	37	12	37,304	89	1,096	7,446	3,104	116	216	815	3	4	18	15	675	12	95	1	0	4	21	0	1
名古屋	名古屋	70	70	11	14	1	8,947	23	434	3,452	559	43	47	203	3	3	11	4	139	1	38					
尾張東部	瀬戸	9	9	2	3	1	2,704	22	106	334	143	1	4	44	1	1	3		85	1	3					
海部津島	津島	7	7	2	2	1	1,318		21	436	181	3	11	36			1	18		2						
尾張中部	師勝	4	4	1	1		1,345		11	464	26	5	6	14			4		4		5					
尾張西部	一宮	16	12	3	4	1	2,639	1	85	792	310	19	19	94	1		1	1	55	1	2		1			
尾張北部	春日井	9	9	2	3	1	4,120	5	88	430	146	14	15	76	1		3	1	61		10	1				1
	江南	6	6	1	2		1,451	2	44	619	160	11	11	54					31		6					
知多半島	半田	6	6	1	2	1	1,910	4	45	299	74	5	1	56				1	58		9			1		
	知多	7	7	2	2		2,297	6	74	598	186	8	3	63				1	12		5					
西三河南部	岡崎	11	7	2	2	1	4,089		105	60	405	5	24	86					94	1	13					
	衣浦東部	11	11	2	4	1	5,712	8	110	552	334	6	29	97				5	105		17			2	5	
	西尾	5	5	1	2	1	1,145	2	58	351	167	2	23	32					36		2			1	4	
西三河北部	豊田市	8	8	2	3	1	2,372	8	48	458	267	5	9	47		3	4	3	75	7	9				4	
	加茂	3	3		1		487	10	42	159	53	7	1	13					18							
東三河南部	豊橋市	8	8	2	4	1	2,796	21	166	1,164	310	10	46	51			1	1	7	1	9				5	
	豊川	9	8	1	2	1	2,676		92	730	323	15	14	45			2	1	12	1	3				2	
東三河北部	新城	2	2			1	243		1		19			7					4							

* 衣浦東部保健所から第9週分としてマイコプラズマ4件の追加報告がありました。

